

道徳科研究部報

令和4年1月

浜松市教育研究会道徳科研究部

今回の道徳科部報では、第2回研修会での講話の内容のまとめと、第3回研修会で予定していた授業の実践報告を紹介します。授業実践の報告については、指導案を別途送付しますので、ぜひ今後の実践に生かしてください。

《第2回道徳科研究部研修会》 講話 「道徳科の授業づくり」
講師 浜松市教育委員会 学校教育部指導課
教育指導グループ 指導主事 武田 伸江 先生

【評価に求められること】

- ・教師の指導改善につなげる
- ・児童生徒の学習改善につなげる
- ・必要性・妥当性が認められないものは見直す

☆評価を指導に生かすことが大切

【国語と道徳 何が違う？】

- ・それぞれの教科の見方、考え方を働かせる
- ・国語科は言葉をよりどころに考える
- ・道徳科は自分自身の心をよりどころに、自分自身の納得解を見つける



【道徳と特活 何が違う？】

どちらも「よりよい人間関係」について話し合うが・・・

- ・特活では、いろいろな考えをまとめて一つにする
- ・道徳では、みんなの考えを一つまとめるのではなく、いろいろな考えをもとに自分自身の考えを広げ、深める

【主体的・対話的で深い学びの実現のために】

- ・話し合った結果を黒板に並べるだけでなく、構造化して可視化したり、違う立場の考えについての発言を促したり、そう考える理由を聞いたりして多面的・多角的に考えさせる
- ・導入時に問題意識をもたせ、自分自身の経験を想起しながら考えられるようにすることで自己との関わりで考えられる授業にする
- ・自己との関わりで考えるための手立てと多面的・多角的に考えるための手立て、更に教師の指導の明確な意図により深い学びが実現される

【教師の指導の明確な意図をもって】

- ・道徳的価値の理解・・・ねらいとする道徳的価値を発達の段階を踏まえて理解する
- ・子供の実態把握・・・ねらいとする価値に対する子供の実態（よさや問題）とそれを踏まえた上で何を学ばせたいのかを明らかにする
- ・教材の効果的な活用・・・授業者の明確な意図、子供の実態をもとに、教材をどのように活用し、どのような学習活動を行うのかを明らかにする

【ICTの活用】

- ・メリット、デメリットを把握し、明確な意図をもって使う
- ・まずはやってみることが大切

